

紅葉山庭園

紅葉山庭園では、駿河国（現静岡県）の名所がミニチュアで再現されている。園内の小径は、里、海、山里、山の4つの風景をイメージして設計されている。

入口の門をくぐったところにある木造の四阿は、里の風景をイメージしている。池に面した四阿と菖蒲の間を縫うように架かるジグザグ橋は、9世紀に書かれた伊勢物語の一場面を想起させる。

池は海を表し、水中や岸辺の岩は伊豆半島の象徴的な海岸風景を連想させる。例えば、四阿の向かいにある白い石は、三保の松原の松並木の海岸を思わせる曲線である。池の向こう側にある富士山のミニチュアは、三保の松原から見える実際の富士山と共鳴している。

山庭の小道は、2つの滝のそばを通る。1つは落差のある滝、もう1つは緩やかな滝で、どちらも紅葉や蔦に縁取られている。滝のそばには、徳川家の家紋にもなっている葵の花が咲いている。

庭園内の茶室では、畳ではなくテーブルと椅子でお茶とお菓子を楽しむことができる立礼席がある。また、雲海、清月庵の両茶室は、イベント時以外は一般公開されている。

この庭園は、2001年にかつての城の台所の跡地に造られた。